

「政府の予算執行って本当に税金を使用しているのですか？」

令和2年5月6日

●ギランバレッタさんからの質問

西田先生に質問です。政府の予算執行って本当に税金を使用しているのですか？ 昨年の12月のニュースでこのような記事が出ていました。「今年度の国の税収は、当初の見込みよりも2兆数千億円減少する見通しとなった。不足する財源を補うため、政府は今年度の補正予算案で3年ぶりに赤字国債を追加で発行する方針を固めた（NHK）」は？ 時系列おかしくないか？ どうしてすでに予算執行しているはずの今年度のお金が足らなくなるんだ？ 政府の予算執行は集めた税金を使用して、足りない分を赤字国債で賄っているのではないの？ と疑問に感じました。西田先生の解説をお願いします。

●西田昌司の答え

「政府は、我々から税金を徴収して、その分を支出している」と（国会議員を含めた）ほとんどの人が思っているのですが、実はこれは間違っています。

税収がいくらあるかは決算しないとわかりませんし、そもそも政府は徴税したおカネを支出に回しているではありません。日本政府が（おカネが必要な時に）政府短期証券を日銀に差し入れると、日銀が日本政府の日銀当座預金を増やしますので、政府はおカネを簡単に調達できます。政府短期証券は歳入（税収）によって後から償還すべしというルールにはなっていますが、政府は税収なしでも支出可能という事実（スペンディングファースト）は決定的に重要です。

政府短期証券は、建設国債や赤字国債のように「国債」とは名付けられて

いないので世間に知られていませんが、この仕組みがあるために政府がおカネに困ることはあり得ません。徴税しても足りない分を赤字国債によって賄っていると思われていますが、これは完全に間違っています。

政府が先に支出（スペンディングファースト）して、その後に徴税によって回収するのですが、納税する際には「円」が必要ですし、「ドル」をいくら持っていようが日本政府は受け取ってくれません。ゆえに国民は「円」を価値あるものと認識しますし、納税義務を果たすために、仕事をしたり、財産を売ることで「円」を得ます。つまり、通貨は納税手段であるがゆえに価値が生じるのです。

但し、スペンディングファーストの仕組みがあるからといって、国債の使い道をなおざりにして良いわけではありません。社会保障料は基本的に今を生きる世代が負担すべき性質のものであり、社会保障料を賄うために赤字国債を発行し過ぎるのはモラル的にも問題があり、税金で賄うのがあるべき姿です。しかし、建設国債によってインフラを整備すると、今を生きる世代のみならず、将来に生きる世代にとっても財産となりますので、インフラ整備の財源を（徴税によってではなく）建設国債で賄っても何の問題もありません（但し、過度のインフレ状況においては国債発行を抑える必要があります）。

赤字国債と建設国債はそもそも性質が異なりますので、これらを混同してはなりません。財務省の役人にはこの論法が通じません。彼らに言わせると、どちらも市場に出せば国債に変わりなく、国債を発行すると将来の世代にツケを回すことになってしまうので国債の残高を減らすべし、となるのですが、これも全く間違っています。

現在、1000兆円を超える国債残高がありますが、これをゼロにするにはどうすれば良いかを考えると、いかに恐ろしいことかが簡単にわかります。徴税で得たおカネをすべて国債の償還に充て続ければ、いつかは国債発行残高がゼロになるでしょう。しかし、その時点で（これまで1000兆円を超えていた）国民の預貯金がゼロとなって、国民は大貧乏になってしまいます（国

民の預貯金を強制的に取り上げて穴に埋めるようなものです)。このようなことをやってしまうと、困っている国民を救えないどころか、次の世代へ何も遺していませんので、まさしく国家が破滅の道を突き進んでしまいます。財政再建とは、このような恐ろしい発想なのです。

国債発行残高とはすなわち、政府が国民にどれだけのおカネを発行したかの記録に過ぎません。この額が 1000 兆円を超えたことを国民はむしろ歓迎すべきですし、この額をゼロにするということは、国民を無一文にするということです。

そもそも政府はいくらでもおカネを調達できる存在ですから、おカネの心配は無用なのです。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>